

問1	平安時代、天皇が幼少のときや女性である場合に、天皇に代わって政治の全権を担った役職は何ですか。 （2017年 大阪府公立入試 類似）			
	1. 摂政	2. 太政大臣	3. 関白	4. 執権
問2	平清盛は、娘の徳子を高倉天皇の後とし、その間に生まれた子を安徳天皇として即位させることで、天皇の親戚（外戚）として権力を強めました。このような平氏の政治手法は、かつて平安時代中期に摂政や関白となって実権を握ったどの家系の手法を模したものとイえますか。 （2021年 福岡県公立入試 類似）			
	1. 藤原氏	2. 北条氏	3. 蘇我氏	4. 足利氏
問3	平安時代初期、遣唐使とともに唐へ渡って仏教を学び、帰国後に新しい宗派を開いた最澄と空海について述べた文として、正しいものはどれですか。 （2025年 沖縄県公立入試 類似）			
	1. 最澄と空海は、遣唐使が停止された後に日本独自の国風文化を背景として、平仮名を用いた布教を行った。	2. 最澄は比叡山に延暦寺を建てて天台宗を広め、空海は高野山に金剛峯寺を建てて真言宗を広めた。	3. 最澄は阿彌陀仏にすがる浄土宗を、空海は座禅を重視する禅宗を、それぞれ平安京の市中で広めた。	4. 最澄は高野山に金剛峯寺を建てて真言宗を広め、空海は比叡山に延暦寺を建てて天台宗を広めた。
問4	12世紀後半に武士として初めて太政大臣となり、政治の実権を握った人物が行った経済政策として最も適切なものはどれですか。この人物は、現在の神戸市にあたる場所に港を整備したことでも知られています。 （2026年 福島県公立入試 類似）			
	1. 朱印状を発行して東南アジア諸国との貿易を奨励した。	2. 堺や博多の商人に特権を与え、座を廃止して自由な取引を認めた。	3. 勘合を用いて明との貿易を行い、倭寇の取り締まりを強化した。	4. 大輪田泊を修築し、宋との貿易を積極的に進めて富を蓄えた。
問5	平安時代中期、社会に不安が広がる中で「阿彌陀如来を信じれば死後に極楽浄土へ行ける」という教えが流行しました。この思想に基づき、藤原頼通が宇治に建立した、中央の堂の左右に翼を広げたような回廊を持つ建築物の名称と、その背景にある仏教の教えの組み合わせとして正しいものを選びなさい。 （2025年 群馬県公立入試 類似）			
	1. 東大寺南大門 — 浄土教	2. 平等院鳳凰堂 — 浄土教	3. 平等院鳳凰堂 — 禅宗	4. 中尊寺金色堂 — 浄土教
問6	平安時代に、日本の自然環境や当時の支配階層の生活スタイルに合わせて発展した住居のあり方について述べたものとして、最も適切なものはどれですか。 （2016年 京都府公立入試 類似）			
	1. 貴族が住んだ寝殿造は、池のある庭園に面した開放的な邸宅であった。	2. 武士が住んだ書院造は、畳を敷き詰め床の間を設けた邸宅であった。	3. 町人が中心となって、通りに面した間口が狭く奥行きが深い町屋が普及した。	4. 農民の住居として、防寒を重視した竪穴住居が依然として主流であった。
問7	平安時代中期に行われた摂関政治について述べた文として、当時の状況を正しく説明しているものはどれですか。 （2026年 鳥根県公立入試 類似）			
	1. 聖徳太子が摂政となり、冠位十二階や十七条の憲法を制定して、天皇を中心とした国づくりを目指した。	2. 藤原氏が摂政や関白の職を独占し、天皇を補佐する形式をとりながら、実質的な政治の決定権を掌握した。	3. 白河上皇が退位した後に、天皇に代わって政治を行う仕組みを整え、藤原氏の勢力を抑えようとした。	4. 平氏が太政大臣の職に就き、一族で高い役職を占めることで、武家として初めて政治の実権を握った。
問8	平安時代末期、白河上皇が始めた「院政」から「平治の乱」へと至る歴史的な背景を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 （2020年 京都府公立入試 類似）			
	1. 空海が建立した金剛峯寺などの仏教勢力が政治に介入したため、上皇はこれに対抗するために源義朝ら武士団を動員して寺院を制圧させた。	2. 平治の乱で敗北した源義朝が、院政の仕組みを批判して鎌倉に幕府を開いたことにより、平安時代の摂関政治が完全に崩壊した。	3. 上皇が摂政や関白の勢力を抑えて政治の実権を握るために、自身の警護や軍事力として武士を重用したことが、武士の政治的地位を高める要因となった。	4. 藤原純友などの武士団が瀬戸内海で反乱を起こしたため、朝廷は武士の影響力を排除するために院政を開始し、天皇親政を復活させた。
問9	平清盛は、自らが太政大臣に就任して権力を掌握した後、かつての摂関政治にならった方法で政治的な基盤を固めました。清盛が行った、天皇との関係を強化するための手法として最も適切な説明を選びなさい。 （2018年 熊本県公立入試 類似）			
	1. 遣唐使の派遣を再開し、大陸の進んだ政治制度を積極的に導入した	2. 院政を行う上皇を幽閉し、武士独自の新しい法律を制定して全国を統治した	3. 娘を天皇の妃とし、その間に生まれた子を天皇に即位させて外戚となった	4. 全国の武士と主従関係を結び、土地の所有権を保証する代わりに軍役に課した
問10	平安時代に発生した藤原純友の乱が、その後の日本の歴史においてどのような意義を持ったか、その背景を含めて説明したものとして最も適切なものはどれか。 （2023年 愛媛県公立入試 類似）			
	1. 朝廷が自らの軍事力で反乱を鎮圧できず、武士の力を借りたことで武士の台頭を促した。	2. 源氏と平氏が対立するきっかけとなり、武家政権である鎌倉幕府が成立する直接の要因となった。	3. 東北地方の蝦夷を服従させ、朝廷の支配地域を北へ大きく広げる契機となった。	4. 海賊の取り締まりを強化したことで、日宋貿易における海上交通の安全が確保された。
問11	平安京の所在地について、近畿地方の他の歴史的な拠点と比較した説明として正しいものはどれですか。 （2024年 長野県公立入試 類似）			
	1. 平安京は摂津国に位置し、難波宮（大阪）よりも西に位置する。	2. 平安京は近江国に位置し、琵琶湖の東岸に沿って建設された。	3. 平安京は山城国に位置し、大和国に置かれた平城京よりも北に位置する。	4. 平安京は伊勢国に位置し、伊勢神宮のすぐ西側に建設された。
問12	平清盛が経済基盤を強化するために、現在の神戸市にあたる大輪田泊を整備して積極的に進めた、当時の中国の王朝との貿易を何とイいますか。 （2020年 大分県公立入試 類似）			
	1. 日明貿易	2. 勘合貿易	3. 日清貿易	4. 日宋貿易
問13	平清盛が行った、自身の政治的・経済的な力を強めるための政策として、最も適切な説明はどれですか。 （2015年 長野県公立入試 類似）			
	1. 自分の娘を天皇のきさきとし、その間に生まれた子を天皇に即位させることで、天皇の親戚として権力を強めた。	2. キリスト教の布教を認める代わりに、南蛮貿易を独占してヨーロッパの最新技術を取り入れた。	3. 全国に守護と地頭を設置することで、地方の武士や土地に対する支配力を強化した。	4. 独自の法典である御成敗式目を制定し、武士同士の領地争いを裁く基準を明確にした。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 摂政	天皇の代理として政治を行う役職であり、平安時代には藤原氏がこの職を独占しました。天皇が成人した後にはその相談役として置かれる「関白」と合わせて、藤原氏による政治体制を支える重要な柱となりました。鎌倉時代に幕府の実権を握った「執権」とは、その役割や時代背景が異なります。
問2	答え 1 藤原氏	平清盛は、自分の娘を天皇の後（中宮）として送り込み、生まれた子を次の天皇に立てることで政治的な発言力を強めました。これは、平安時代中期に藤原氏が摂関政治を行う際に用いた「外戚（母方の親戚）関係を利用した権力掌握」と同じ手法です。武家政権でありながら、形式としては従来の貴族政治の仕組みを継承していました。
問3	答え 2 最澄は比叡山に延暦寺を建てて天台宗を広め、空海は高野山に金剛峯寺を建てて真言宗を広めた。	最澄（伝教大師）は比叡山（滋賀県・京都府）を拠点に天台宗を、空海（弘法大師）は高野山（和歌山県）を拠点に真言宗をそれぞれ開きました。これらは平安時代初期の仏教の特徴であり、奈良時代の仏教が政治と深く関わっていたのに対し、山の中での厳しい修行を重んじる「密教」としての性格を強く持っていました。選択肢にある浄土宗や禅宗は、後の鎌倉時代に広まった仏教です。
問4	答え 4 大輪田泊を修築し、宋との貿易を積極的に進めて富を蓄えた。	平清盛は、武士として初めて政権の頂点に立つと、経済基盤を固めるために日宋貿易を推進しました。そのために、現在の神戸市にあたる大輪田泊を大規模に修築し、宋の大型船が停泊できるようにして、宋銭や陶磁器などの輸入を行いました。
問5	答え 2 平等院鳳凰堂 ― 浄土教	藤原氏が摂関政治で権勢を誇った時代、末法思想（仏教の教えが衰えるという考え）の影響で、死後の救済を求める浄土教が貴族から民衆まで広く浸透しました。藤原頼通は、この極楽浄土の様子を地上に再現しようと、池を中心とした浄土庭園を備える平等院鳳凰堂を京都の宇治に建立しました。選択肢にある中尊寺金色堂は奥州藤原氏によるもの、東大寺南大門は鎌倉時代の建築です。
問6	答え 1 貴族が住んだ寝殿造は、池のある庭園に面した開放的な邸宅であった。	平安時代中期以降、中国の影響を強く受けた文化から、日本の独自性を生かした国風文化へと変化しました。寝殿造は、その象徴的な住居様式です。選択肢にある書院造は室町時代に登場した様式であり、町屋の発展は後の時代である江戸時代の商業発展と密接に関わっています。
問7	答え 2 藤原氏が摂政や関白の職を独占し、天皇を補佐する形式をとりながら、実質的な政治の決定権を掌握した。	藤原道長や頼通の親子が約50年間にわたり摂政・関白を務めた時期に、摂関政治は全盛期を迎えました。彼らは公文書の作成や人事権を握り、華やかな貴族文化を背景に絶大な権力を行いました。他の選択肢は、飛鳥時代、院政期、または武家政権の説明です。
問8	答え 3 上皇が摂政や関白の勢力を抑えて政治の実権を握るために、自身の警護や軍勢力として武士を重用したことが、武士の政治的地位を高める要因となった。	白河上皇が始めた院政では、それまで政治を主導していた藤原氏（摂関家）の力を抑える必要がありました。上皇は自身の直属の武力として「北面の武士」などを組織し、平氏や源氏を重用しました。この結果、皇位継承や朝廷内の対立が起こった際に武士の軍勢力が不可欠となり、保元の乱や平治の乱を経て、最終的に武士が政治の実権を握る時代へと移行していきました。
問9	答え 3 娘を天皇の妃とし、その間に生まれた子を天皇に即位させて外戚となった	平清盛は、武家政権の先駆けでありながらも、その権力掌握の手法は藤原氏の摂関政治に近いものでした。具体的には、娘の徳子（建礼門院）を高倉天皇の妃に入れ、その間に生まれた安德天皇を即位させることで、天皇の祖父（外戚）として強い発言権を持ちました。このように、朝廷の最高職である太政大臣の地位と、天皇との血縁関係の両面から権勢をふるいました。
問10	答え 1 朝廷が自らの軍力で反乱を鎮圧できず、武士の力を借りたことで武士の台頭を促した。	藤原純友の乱や平将門の乱といった大規模な反乱に際し、当時の朝廷には自力でこれらを鎮圧するだけの軍勢力が不足していました。そのため、地方に根を張っていた他の有力な武士を動員して鎮圧に当たらせる必要がありました。この結果、武士は朝廷にとって不可欠な軍勢力として認められるようになり、のちの武家社会の形成につながる大きな背景となりました。
問11	答え 3 平安京は山城国に位置し、大和国に置かれた平城京よりも北に位置する。	平安京が置かれた京都盆地（山城国）は、平城京が置かれた奈良盆地（大和国）の北側に位置しています。桓武天皇は、平城京での仏教勢力の政治介入を断ち切るために、まず長岡京へ遷都し、その後さらに条件の良い平安京へと都を移しました。難波（大阪）は平安京の南西、伊勢（三重）は南東に位置するため、地理的な位置関係を正確に把握しておく必要があります。
問12	答え 4 日宋貿易	平清盛は瀬戸内海の航路を整備し、大輪田泊（現在の神戸市）を改修することで、中国の宋との貿易を推進しました。この貿易によって大量の宋銭が日本に流入し、貨幣経済が普及するきっかけとなりました。武士が土地の支配だけでなく、貿易という経済活動を通じて富を蓄えた点が特徴的です。
問13	答え 1 自分の娘を天皇のきさきとし、その間に生まれた子を天皇に即位させることで、天皇の親戚として権力を強めた。	平清盛は、かつての藤原氏が行った摂関政治と同じ手法を用いました。娘の徳子を高倉天皇のきさきにし、その子の安德天皇を即位させることで、天皇の祖父（外戚）として強い発言力を持ちました。また、並行して大輪田泊（現在の神戸市付近）を整備し、日宋貿易を推進して経済力も蓄えました。